

# 栃木県立農学校



明治43年9月、  
皇太子殿下行啓記念絵葉書



宇都宮白楊高校内にある、国登録文化財指定の日講堂

戦後の学制改革により誕生した宇都宮農業高校を経て、現在の宇都宮白楊高校へ改称したのは、一九八九(平成元)年四月のことである。しかし、校庭に凜として立つ三本のポプラは今も変わらない。

栃木県における農業教育は、一八九五(明治二十八)年四月二日、栃木県尋常中学校(現宇都宮高校)敷地内に設置された栃木県簡易農学校(現白楊高校)に始まる。その目的は、農家の子弟に「簡易なる方法により農事教育」を実施し、農業・林業を主とした本県産業の近代化を図ることにあった。

簡易農学校設置は実業教育の整備を急務とする国の施策によるものだった。一八九四(明治二十七年)には、指導的技術者育成を目指す「実業教育国庫補助法」が制定。同年七月には、文部大臣井上毅より省令「簡易農学校および徒弟校規定」が公布された。殖産興業を掲げ、教育の充実を図る明治政府の意気込みが見てとれる。(「栃木県教育史4」県連合教育会)

これを受けて農学校設立の気運

は急速な広がりを見せた。九四年十二月の県議会で同校の創設を建議。設置決定を経て、その翌九五年五月一日には、早くも佐藤暢知事臨席のもと開校式が挙行された。「栃木県史」(史料編・近現代8)には、建議の様が次のように記されている。「現存セル中学校ノ農業専修科ヲ廢シ新クニ獨立セル実業的簡易農学校ヲ起コシ国庫ノ補助ヲ仰グ事トナシ、以テ完備ナル獨立簡易ノ農学校トナシ、勸業費中ノ農事講習所ヲ廢シテ農業校分教場及巡回費トシ、併セ農業試験場費ヲ転シテ農業校内ニ附屬セシメ、原案ノ目的ナル農事試験及分析ノ実務ヲ拵ゲントス」。ここに登場する農業専修科と農事講習所は、それまで県の農業教育を担っていたいわば先駆者。同校創設の萌芽はここにあったと言つてよい。

また、同校の誕生は全国の農学校の中でも古く、鳥取、宮城、高知、長野、富山・大阪に次いで七番目。関東では唯一の農学校だった。(「百年史」県立宇都宮白楊高校)

開校した場所は、前述した河内郡婆川村大字鶴田の県尋常中学校の敷地内。初代校長には同校教諭の木村繁四郎が就任した。修業年限は二年間、定員百名。寄宿舎と日光線沿いの約七千四百坪の実習場を同中学校農業専修科から引き継ぎ、学校経営にあつた。

その後同校は、一八九七(明治三十一年)三月、宇都宮市鶴田から那須郡野崎村(現矢板市)に移転。翌年、組織を改編し栃木県農学校と改称した。さらに一九〇一(明治三十四)年には、栃木県立農学校と改称し、〇三(明治三十六)年、再び宇都宮市今泉町に移転するなど幾多の変遷をみた。